

佳作

ぼくの決だん

茨城県笠間市立笠間小学校三年 土肥 響

八月七日、ぼくは「とくど」をして、おしゃかさまの弟子になりました。

ぼくの家は、お寺です。九さいになると、とくどをうけることができます。

今年の二月に、お父さんとお母さんから、八月にとくど式をうけるかどうか聞かれました。ぼくが、七月で九さいになるからです。

「どうするかは、ひびきが決めていいんだよ。」と言われてました。ぼくは、どうするかとてもまよいければならないからです。ぼうず頭になったら、みんなにからかわれるんじゃないかと、不安になりました。だけど、とくどをすることにしました。たくさんなやみましたが、最後には、自分で決めました。とくどをするためには、けんしゅうをうけて、テ

ストに合格しなければいけません。三月のテストで読むのは、おしゃかさまの言葉としらんさんの言葉です。テストまでの間、毎日学校から帰って、練習しました。と中で、ねむくなったり、足がしびれたりして、「もうやめたいなあ」と、思ったこともありました。でも、お父さんが練習につきあってくれたので、がんばりました。そのおかげで、テストに合格することができました。

そしてついに、八月六日、とくど式をうけるために、きょうとの東本がん寺へ行きました。せつ明会の後、とこやさんへ行って頭をそりました。そっている時、少しさみしい気持ちになって、なんだかボーンとしてしまいました。でも終わってかがみを見た時、「そんな悪くないな」と思いました。

次の日は、いよいよとくど式です。着物を着て、おどうに入りました。中はまっくらで、ロウソクの明かりだけがついていて、とてもしずかでした。ぼくは、自分の心の中がシーンとして落ちつく感じがしました。かみそりを頭にあててもらい、ぼくはおしゃかさまの弟子になりました。

そのあと、法名をいただきました。法名とは、おしゃかさまの弟子になった名前です。ぼくの法名は、

「釈教響しやくきやう」という名前でした。その時ぼくは、自分がほこらしく思えました。それはきつと、自分でとくどをうけると決めて、やりとげたからだと思いません。

正直、しょう来お寺をつぐかどうかは、まだまよっています。ぼくには、やりたいことがたくさんあるからです。しょうらいの事は、これから考えていきたいと思いません。

とくどが終わったあとに、お父さんから

「おしゃかさまは、どんな人でもほめてくれるのだよ。」

と教えてもらいました。だからこれからは、どんな人でもいいところを見つけてくれるようになりたいです。とくどは、ぼくの大切なけいけんになりました。